

第2章 わかやまの生物



わかやまの海と生きもの



魚類・貝類の多い3種類の海

日本全国の海からは4,000種近くの魚類が見つっています。和歌山県沿岸^{えんがん}では、その半分近くの約1,700種の魚類が見つっています。北海道沿岸^{ほっかいどう}の約750種、高知県沿岸^{こうち}の約1,400種、瀬戸内海全体^{せとないかい}の約650種と比べると、県内にはずいぶん多くの魚類のすんでいることがわかります。

また貝類も、全国の約6,000種のうちの3,500種くらいが県内で見つっています。熱帯地方^{ねったい}のサンゴ礁^{しょうご}を作るイシサンゴ類は、日本産約400種中の100種以上が見つっています。和歌山県の沿岸は、海洋生物の種類数が日本でも特に多い地域として知られています。

海岸線の長さは約580kmありますが、これは、全国では第19位なので、海岸線が特に長いわけではありません。県内の海にたくさんの生物がすんでいる理由は、紀伊水道^{かききなだ}・枯木灘^{くまの}・熊野灘という性質の異なる3種類の海があることと、自然の海岸がたくさん残されているからです。

紀伊水道

日ノ御崎^{みさき}から和歌山市にかけての海岸は、紀伊水道に面しています。紀伊水道は、平均水深が50mより浅くて、冬には水温が10℃以下になり、瀬戸内海とよく似た性質の海です。太陽の光が海底まで届くので、マクサ（テングサ）やワカメのような海藻類^{かいそうるい}の生育^{せいいく}に適しています。砂地の浅い海底には、海草^{うみくさ}の一種であるアマモの生えているところもあります。

海藻やアマモは、小さなゴカイやヨコエビなどのすみかになっていて、これらをエサにする魚の子ども（稚魚^{ちぎよ}）の育つ海です。紀伊水道には、マダイやカレイ、クルマエビなどの瀬戸内海にも多い生物がたくさんすんでいます。

枯木灘と田辺湾

串本町^{くしもと}の潮岬^{しおみさき}から白浜町にかけての枯木灘^{くろしお}は、黒潮が本州に最も近づく海です。黒潮は、水温20～25℃の透明できれいな海水の流れです。きれいな分だけ栄養分は少ないのですが、栄養分の多い沿岸の海水と混ざり合うと、暖かくて栄養分^{ほうふ}の豊富な、すみ心地のよい海となります。

また黒潮は、熱帯の海にすむ生物を運んできます。枯木灘の海の中の環境は、紀伊半島よりずっと南の海と似ているため、イシサンゴの仲間が数多くすみつき、サンゴ礁^{しょうご}にいる魚類や熱帯性の貝やウニなどもたくさんすんでいます。田辺湾^{たなべわん}から日ノ御崎にかけての沿岸も黒潮の影響を強く受けて、温帯性^{おんたい}の生物に混じって熱帯性の生物もすんでいます。

*1 海藻は、キノコと同じように胞子で繁殖するなかま。
*2 海草は、陸上の植物と同類で、花を咲かせ、種子で繁殖するなかま。

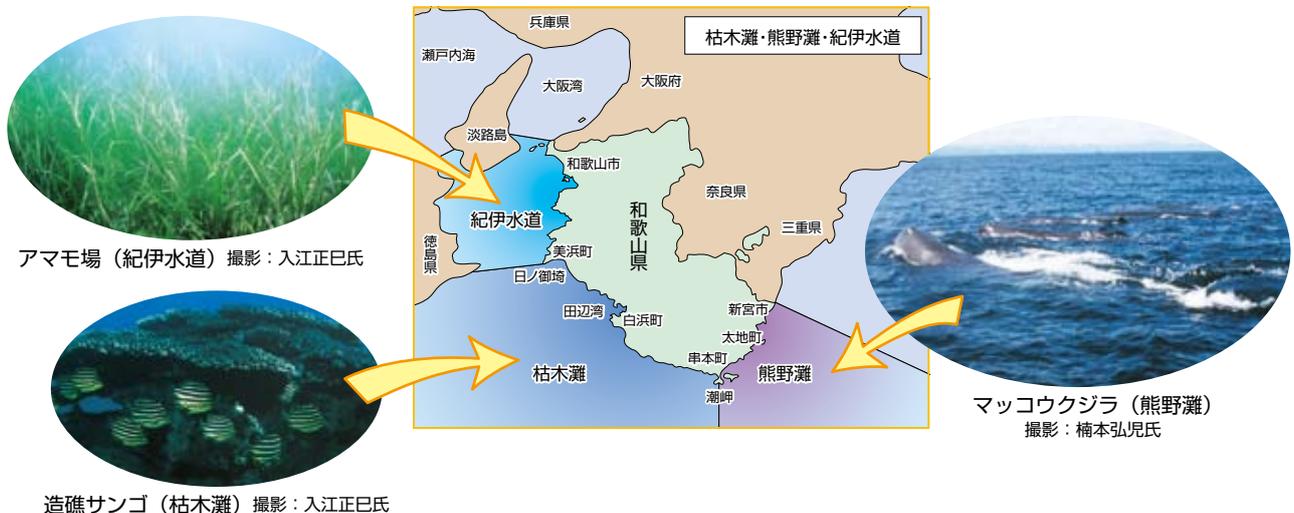
熊野灘

潮岬から新宮市にかけての熊野灘は、海底が急に深くなっている、その沖は水深2,000mを越す深海に続いています。そのため熊野灘からは、チョウチンアンコウやタカアシガニのような深海の生物がたくさん発見されています。

また、深海には栄養分の多い海水がたまっています。沖を流れる黒潮が、この栄養分の多い深海水を表面にまで巻き上げているので、熊野灘は、魚のエサになるプランクトンも多い海です。熊野灘に突き出た太地町の沿岸には、全長15m前後もあるマッコウクジラやザトウクジラが毎年何十頭も現れます。鯨にとって熊野灘は、太平洋を東に向かう前にエサを十分にとって休けいする海なのです。今から100年くらい前までは、全長20mにもなるシロナガスクジラも泳いでいました。

海をきれいにする海岸の生物

波打ち際が自然の岩や砂浜の海岸を、自然海岸といいます。反対に、堤防や岸壁に波が直接当たるところは人工海岸です。和歌山県では、全海岸線の約70%が自然海岸です。また、海には、フジツボ類やマガキのように、岩にくっついていて生物がたくさんいます。くぼみや出っ張りの多い自然の磯には、まっすぐに切り立った人工の岸壁より何十倍も多く生物がすんでいます。これらの生物は、海水に漂っているプランクトンや生物が分解した小さなごみ粒などをエサにしています。一方砂浜では、打ち寄せる波が砂にしみこんで、海水をろ過する働きも行っています。自然海岸では、生物と海岸の両方が、海水を浄化する役割を果たしているのです。



わかやまの知識

コライ

【ラムサール条約と串本のサンゴ】

ラムサール条約とは、1971（昭和46）年にイランのラムサールで採択された「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」のことです。最初は、湿原や干潟の国際的な保護を目的としていましたが、その後水深6mより浅い海も保護の対象に含めるようになりました。串本の沿岸は、温帯地域にありながらサンゴ礁を造る熱帯性のサンゴが多数生息している世界でも貴重な海であることから、「非サンゴ礁域のサンゴ群集」として、2005（平成17）年に登録されました。